

## 令和2年度第4回東播磨新地域ビジョン検討委員会議事録

1 日 時 令和2年12月24日(木) 14時～15時

2 場 所 加古川総合庁舎2階 会議室

3 参加者 15名(一般 7名 行政 8名)

4 内 容

### (1) 兵庫県将来構想試案(案)説明(本庁ビジョン課職員)

委員長) 年末のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございました。第4回目の検討委員会ということで振り返ってみますと、前のビジョンの振り返りをさせていただくのと、今回の新ビジョン策定にあたっては若い意見を聞くということ、アンケート調査を行うということ。このようなことを3回にわたり審議してきました。ビジョンの進め方としては2つあって、何年を目標にするということでも議論ありましたが2050年を目標にしてそこを目指すと同時に、足下もちゃんと見ないといけないという議論が出てきたと思っております。そうやって2つをどうやって進めていくか議論をしてきました。事務局の方にも資料の作成等でご尽力いただきました。

一方で、県全体の方向性もあるというところで、本日お手元参考資料として兵庫県将来構想試案(案)があります。これが本庁の全県ビジョンの進め方でございますとか、我々が行っている地域ビジョンや新地域ビジョンの関係がこれに描かれているということもございますので、まずご説明をさせていただけたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

ビジョン課) 兵庫県将来構想試案(案) 説明

委員長) ありがとうございました。資料が多く、皆さん初見ということもありなかなか全てを読み込むに至っておりませんが、分けて考えて行きましょう。

策定趣旨は先ほどご説明いただいたとおりでして、趣旨はよろしいでしょうか。

県がどのように現行ビジョンを作っていたかというところで、前のビジョンの作り方の一つの方法は90年代の終わりに研究会でいくつかのレポートを出してそれを踏まえてビジョンを作っていたというところなんです。ですから、今回もそれに類似した方法かなと思っております。先ほどビジョン課からも試案の案というのはたたき台というよりむしろ参考資料で、という言い方をされていましたが、そういう位置づけ

です。これでよろしいでしょうか。

その次ですけども、「大潮流」といういわば方向性。兵庫県と全国あるいは世界も想定されているのですが、その辺り何かご質問ありますでしょうか。人口減少とか自然の驚異とかテクノロジーの進化とか6つぐらいに分けられていますが、これに関連する中でご質問あれば是非。

例えば私が気になるのは人口減少で、兵庫県全体のことを書いていらっしゃいますが、地域差はありますよね。地域差の話はこの検討会の中で何か議論はされたのですか？

ビジョン課) 全県ビジョンの検討というところで県全体として考えておりますので、地域毎の話は出ていない状況です。

委員長) いかがでしょうか。他に何かご質問あれば。

委員) 「テクノロジーの進化」のところで「データ主導社会」という言葉がありますが、どういう意味でしょうか。前後の表記を読んでもよくわかりません。どうやらエビデンスのためにデータを重視するという話ではなさそうですね。どんな社会をイメージされていますか？

ビジョン課) 「データ主導」の定義は即答出来かねますので、またビジョン課で確認して回答いたします。

委員長) 先ほど直感的な部分もあるとおっしゃったので、キーワードとしてこういう言葉が使われている気がします。

事務局) データが世界、社会を動かしていくというイメージではあると思う。10年前や20年前とは違ってきているので。それが30年後には更に進化したデータ主導の社会になっていくのではないかと。

委員長) おっしゃっていることはわかる。だが、誰がデータをつくるのか。国が全部データになって、国民全員に番号をつけて国民全員を把握するという訳ではないと思いますが、やはり気になりました。

委員) 誰がデータをつくるのか、という問題もありますし、データを正しく読み取るデータリテラシーやメディアリテラシーの議論はされたのかどうか。「データ主導社会」という言葉になじみがないので、是非議論の中身を教えてください。

委員長) イメージとしては事務局がおっしゃったことなのでしょうが、社会という言葉も出てきているのが気になる場所なので。他に何かご質問はありますでしょうか。

長期的に見て、人口が減る。人口が減る一方で高齢化は進むし、世界と繋がっていくし、世界と繋がる基盤となるのはデータですよというような、三十年後はこうなるというようなイメージでしょうか。また価値観の変化も面白い。

そうしましたら次のところで、26 ページ。6つの方向性が整理されているところです。6つの方向性含めて何かご質問ありましたら。私の個人的な印象もあるのですが、例えば1番、2番、5番、6番は人と社会の関係からいうと、1番とか2番とか5番は人にフォーカスしたイメージで、3番の「開放性の徹底」は社会だと思います。4番は微妙なところがありますが、「集中から分散へ」は人の動きといえそうところもあるでしょうけど。6番は人も社会も両方だと思います。人と社会の一連を書かれているところが殆どだと思いますが、こうした人と社会の方向性に対し行政はどうするの?というところが気になりますね。どこに書かれているのでしょうか。

ビジョン課) 行政に関しては進化したいという形で。

委員) 58 ページのところで「進化する自治体」というのがありますね。

ビジョン課) シナリオ 26。こういった形で、行政も変わっていくというのは描かれておりますけれど、実際柱に対して一つ一つ、行政がどのように関わるかというのはまだ議論がされていないような状況で、こういう未来が描けるのではないかとこのところに焦点を当てていますので、こういった対応をするのかという話のところまでの議論はされていませんので、これを元にして次にそういった議論をしていくという。

委員長) それは全県ビジョンの中に入っていく?

ビジョン課) そうですね。

委員長) そうするとこの7つの方向性を目指すということによろしいですね？

ビジョン課) そうですね。今現在目指すという形で議論している。

委員長) わかりました。ありがとうございました。

委員) 柱立ての下の部分に「研究会及び県民の主な意見」とありますが、県民の主な意見というのは、副知事が「ビジョンを語る会」に出られた時の意見が入っているのでしょうか？

ビジョン課) 「ビジョンを語る会」の意見であったり、県民意識調査などで、ピックアップされた意見です。

委員) 確認したいのですが、7ページに「人口の偏在化」として無人化が予想される地域が地図でリアルに示されていますね。そこと52ページの未来シナリオ21「都市と多自然地域の共生」や70ページの未来シナリオ38「受け継がれる地域」の書きぶりのバランスについてです。とくにシナリオ38は「全ての地域が残る」という前提で書かれているようにみえます。一方で、無人化や縮退を想定しながら、他方で、どんな小規模な集落も、他の地域と連携することによって、あるいはコロナで一極集中が止まるだろうから持続できる—というシナリオになっているように思います。すべての地域で持続を目指すのか、無人化を前提に残すべき地域の検討に入るのか、どちらにスタンスを置くのかで、全然変わってきます。県では、どのように議論されたのか教えてください。

ビジョン課) そういったところでの議論はまだ出来ていない。将来こうなるであろうという予測をまだ全然まとめていないため、その辺りの矛盾が出てきてしまっていることは現状ではあります。ただそれをどのような形で全県ビジョンの方に作っていくかというところをこれから議論してまいりますので、これ自体最初の説明の際にもさせていただきましたが参考資料ですので、きれいにならして

はいない。

委員) 非常に難しい問題だと思います。人口が急激に減って無人化する地域が出るのは明らかですが、縮退にかんする理念や手法は確立されていないので。

事務局) 今のままの潮流で進んでいったら、確実に無人化になりますけどその無人化をある程度食い止めようということで、そういったビジョンに基づいてそういった施策などを作っていくということになる。

委員) それで今まで20年間やってきても、実際には人口の減少と偏在化が進み、無人化が食い止められない状況ですよ。2050年を想定した次期ビジョンでは、地政学的に重要な場所に居住地を絞りこんでいくシナリオが出てくるのかなと思っていましたので、今回それが無かったのが意外でした。また、20年間「頑張る地域」を推奨するだけなのかな、と。

事務局) 今の状態からいったら、このコロナ禍でリモートの仕事など増えるようになっていますし、都会から田舎への移住も、兵庫県内でもものすごく進んでいますので、過去の20年にばかりとらわれたらそういった無人化は進むかもしれませんが、現状更にこれからのデジタル化などを見ていったら、ある程度は仕方ないかもしれないけども無人化をなるべく食い止めていこうというのがおそらく県のスタンスではないかなと。

委員長) 県としては、無人化を認めますとはなかなか言いがたい。

事務局) 行政としては絶対に言いがたい。

委員長) 議論したことがありますけど議論だけで実際どうするかの政策にもっていくのは難しい。

副委員長) そろそろ認めた方が良い。そうしないと行政としてやることなくありますので。無人化して、無人化になってしまったところをどういう風にして都市住民が利用していくのかという立場で考えていかないと。

事務局) 都会に住んでいたらそういう感覚になるかもしれませんが、実際多自然地域に住んでおられる方も県民ですので。そこの考え、思いはとらえながら作っていかないと。客観的に見たら無人化の流れを食い止めるのは難しい。

委員長) 幸いにして、東播磨地域はそこまで極端ではないが副委員長と事務局がおっしゃったところは但馬とか丹波とか西播磨では結構深刻な問題で、もしかしたら議論しないといけないところかもしれません。ビジョン課には、こういった議論がこれから出てくることにご注意くださいとしか言いようがない。

よく出来ている資料だと私も読みながら感じました。あらゆるところまで考えているなど思いながらもしかしまだ違和感、もやもや感を感じたりする。

副委員長) 未来シナリオで1から38ありますが、この中に「兵庫県は」というのがない。どこでもいえる話。例えば32の「誰もが自分の良さを追求出来る」「多様性」「挑戦」全部、どこでも言える。だから、兵庫県として自分の良さを追求するにはここだという、キーワードで良い。そこを入れておかないと読んだ時に、県は何を考えているのかという。ビジョンを作る上では主語が必ずいる。加古川市なら加古川市。県、東播磨などの主語が全くない。そこは考えながらビジョンを作っていたきたい。

ビジョン課) それは、将来構想研究会の中でもよく議論になるところで、未来のシナリオを考えるにあたって、流れというか、こういう流れもありますよねというところをピックアップさせていただいておりますけれど兵庫県というのをフォーカスしすぎるとなかなか資料を作りにくいところもありまして、こういう形になってはおります。参考資料の中で兵庫県が関係するようなところを出来るだけ入れるようにさせていただきます。ご指摘はごもっともだと思っております。

委員長) 兵庫県は全国の縮図みたいなのところがなきにしもあらずなので、どうしても副委員長がおっしゃったように兵庫県のことを書いているのか、日本のことを書いているのかわかりにくい話でもありますが、構想研究会の中でもそういった議論があるということで。市の方、いかがでしょうか。市の方でもビジョン

を作られていて、ある程度 10 年、20 年のビジョンは掴まれているのですが、何かございましたら。

委員) よく出来ている資料だと思います。シナリオを 38 個作られていますが、シナリオはもっと沢山あった中で絞っていった形でしょうか？

ビジョン課) そうですね。色んな項目がある中で、無理矢理 6 つの柱に固めまして、その後色々ぶら下がっていたものを出し入れしながら今の形になっているような状況です。

委員) 参考にするのであれば、出たものを全部出していかないのですか？

ビジョン課) 方向性は決めておかないと、構想研究会で議論する際にも参考にもならなくなってしまうので、こういった方向性でまとめています。

委員) 順番でいうと、先に未来のシナリオが出来て、いくつかにまとめることが出来るということで方向性が決まったのか、先に方向性があってそこに未来シナリオをあてていったのか、どちらでしょう？

ビジョン課) 方向性があって、そこに未来シナリオをあてていった形です。

委員) 私の個人的な感想ではありますが、こういう方向性で 5 本柱とかよく聞きますが、6 本にした意味というのはあるのでしょうか？

ビジョン課) もともと 5 本柱でしたが、最後プラスされたのは「集中から分散へ」これは、現状を加味した上で入れないといけないだろうということで、プラスされ 6 本になった。

委員) もう一つ。菅総理も環境の話をおられて、2050 年というのは CO2 の排出をゼロにする。まさにその年代ですが、シナリオの中には沢山あるのですが、柱の中に環境はないですが、そういったところでの議論はあったのでしょうか？

ビジョン課) 研究会で環境についての意見は出ていない。シナリオでは入っているということで、この形で進んでいます。

委員長) ご専門の先生がおられますから、そういった議論はなされたものだと思います。それ以上に課題の方から持ってきたのがあるのかなという気がします。なかなか読み込むのも難しいところですが、いかがでしょうか?何かお気づきの点などあれば。

委員) まだ理解出来ていない部分が沢山ありまして、資料を読み込んでいかないといけないと思っています。ただビジョンとしまして、この30年ですごく変わっていくのは明らかだと思います。特に2025年に大阪万博があるわけですが、そこで未来の暮らしが提案されていきます。そこからすごく変わっていくのではないかという気がしますし、12月に菅内閣で脱炭素社会も発表され、すごく色々なエネルギーなどが動いていっています。こうしたビジョンに近づけていくようなことが提案出来たら良いのではないかと考えています。

委員長) ありがとうございます。何かご意見あればどうぞ。

委員) 今日初めてこの資料を見させていただいて、東播磨に合ったものを作っていけるようにこれを参考にしていけたら良いのかなと思いました。

委員長) ありがとうございます。最後ご指摘がありましたように、強弱はついているので、これを参考にさせていただきながら作ったら良いだろうということです。委員、いかがでしょうか。

委員) まだ理解出来ていないところもありますけれど、自分の関心として「集中から分散へ」というところで気になって、その他の柱も見ていたりしていましたが、「集中から分散へ」という中では、自由になる働き方、色々な場所で働き住むと書いてあって、おそらくそうなるのだらうなと思うのですが、そうなる気になるのが「繋がり再生」での地域コミュニティのあり方とか、他のコミュニティのあり方とか変わってくるのだらうなと思っています。とりあえず



見た感じだと、これまで言われてきたコミュニティの再生の話だとかが中心になるのかなと思いますが、新しいコミュニティのあり方など議論になったところがあれば教えていただきたい。

ビジョン課) メインでされている先生がおられまして、共同保育といった話は議論にはあがってきていまして、シナリオ8の「拡張する家族」だったり新しいコミュニティなどでは議論がされています。

委員) 移動とか、バーチャルとかそういう言葉が普通になっていく社会、コミュニティのあり方は。

事務局) シナリオの11に「ひろがる縁」があります。

委員長) シナリオ10の「最期まで自分らしく」だと近所の人との支え合いが一番高い。この辺りのところはどうなるのか。先ほどおっしゃったように縁は広がっていくけど希薄化していく可能性がある。ネットで繋がっていくけども、リアルな部分では繋がりが減っていく。東播磨は、都市的な部分とある意味農村的な部分が混ざっているというところがこの地域の特徴的なところで、どっちへ行くのという印象があるので、ですから議論をどうされたかというところが気になられた。東播磨のある種特殊性、都市部でもない。農村部で開放型にしていかないといけないコミュニティでもない部分の特殊性が議論にされるかということで指摘されたということです。

初見の部分もありますので、まだ皆さん読み取っておられないところもあるかもしれませんが、質問がありましたら事務局まで。事務局からビジョン課へおつなぎしていただければ。

先ほど委員からもありましたように、これを参考にしながらこんな社会になれば良いなど、ですが勿論地域差がありますから、その中でどの部分を活用していくのか、あるいはどの部分がこの地域において課題かというのは考えないといけない。繰り返しになりますが、よく出来ている資料だと思いますので、しっかり読み込んでいただくと面白いアイデアが出てくるのではないかと思います。ありがとうございました。

## (2) 新ビジョンの進め方・描き方について

続きまして、前回議論になりました新ビジョンの進め方、描き方になるわけですが、まず将来像を描くということです。その参考になるのが今日お示しいただきましたこの将来構想試案になる訳ですけども、将来像をどう実現していくのかということに課題が生じてまいります。課題をどうやって解決していくのかということになりますけども、先ほどビジョン課からもありましたように地域の特性というものも練り込んでいく、踏まえていくことが必要になってまいります。これらを踏まえまして、私と事務局から少し提案をさせていただきたいと思っております。資料1、今まで3回議論させていただきまして、最初は雲を掴むような話というところから始まり、何年が目途だという話からようやく大体目指すところが見えてきた。そしてもう一つ、この委員会でやってきましたのが、前のビジョンの見直しという。評価というと厳しめですけども、そこをやってきた。こうなってくると、前のビジョンで目指していたところで実現出来ていない部分も色々で見られたというのが結論だった訳ですが、そういった部分を踏まえましてその部分を解決していかないと、次のビジョンを描くにあたって課題の解決に結びつかないのではないかと。

こうした点を踏まえまして地域の足腰を固めていく部会と、2050年には主役になるであろう若者に対してアンケートを実施しておりますからそういった結果ですとか、今日ビジョン課からお示しいただきました構想試案を踏まえながらこの地域がこうなってほしいというところを描く、デザインする部会に分けて議論出来ないかなと思っております。

部会というと普通はテーマごとに分けるのですが、委員もおっしゃったように将来大きな変化がある中でテーマを色々分けるよりは全体を見ながら考える方が良いのではないかと。というところで足腰を鍛える部分と頭を伸ばす部分と二つの考え方で部会をつくるという提案です。まずここまで何かご提案はありますでしょうか。

委員) 前回のビジョンとしての役割、この地域の中でどれだけ反映できたのかというところがあります。そういったことが検証されていって、次のビジョンに繋がっていくのではないかと先ほどの話の中から思いました。ですからやはり検証はするべきですよ。

委員長) ありがとうございます。また課題解決部会のところで議論をしていきたいと思っております。

そうしましたら、この方向で考えさせていただきたいと思います。この部会を並行して進めていながら次回以降の検討委員会で、部会で検討された将来像や課題の解決方法、方向性などを取りまとめていくというのが今考えているところです。

次にメンバーで、これは異論があるかもしれませんが私と事務局で相談の上決めさせていただいています。各市町の行政委員の方には課題解決型のところに入っていたいただきたいと思っています。何故かという、例えば地域コミュニティなどの市町行政が関わる部分、情報ですとか各市町の条例ですとか方針とかありますからそういう部分を抜きに課題解決といってもずれてしまうかもしれないということもありますので各市町の行政委員には課題解決部会に入っていて、この間水素社会の話もしていただいた委員もおりますけれど、地域デザイン部会というところに入っていて副委員長にまとめていただきたいというのがあります。是非ともお知恵を拝借したいというところでこういう風な構想で考えておりますが、この辺りも含めてご意見賜ればと思いますが、いかがでしょうか。

学識者のお二人にお願いしたいのは、高校生へのアンケートもとっていますので、高校生や若い方の意向とか先ほど示していただいた潮流を踏まえての議論を考えていただきたい。何度も申し上げますが地域性というのが非常に重要になってきますので、県民局長がおっしゃっていたのは自然。コウノトリがやってくる自然環境、最先端をいっている企業がある、若者を助けていくような繋がりがあるとか、あるいは歴史文化など。東播磨ならではの地域性を踏まえて構想案というものをお考えいただきたい。

副委員長) 前回、私は欠席していたので、資料を見るだけだったのですが、方向性というのは皆さんできちんと共有されているのかどうか。そこが、私が見えないところ。

委員長) 部会には必ず事務局に入ってください。来年度ですので、市町の方はもしかすると人事異動があるかもしれませんがその場合は引継をお願いしなければいけないところですが、いかがでしょうか。

委員) 学識者は二人ずつ分けているということですね。もし両方に入りたいという方がいたら？部会メンバーはコアメンバーで、後は自由参加？

委員長) そういうことで良いと思います。

部会はコアメンバーという形で必要に応じてもしご参加したいという希望があればどちらでも参加できるようにしますので。特に地域デザイン部会では先ほど出てきました骨子案の要になってくるような構想の部分、どのような将来像なのかというところでございますので、色々と議論しないといけない部分が多々あるかと思えますけれど、是非よろしくお願ひしたいと思っております。

そうしましたら、部会に分かれます。部会ではコアメンバーという形で進めさせていただいたらと思ひます。そうしましたらこの議題は一度終わります。

事務局から若者アンケート調査ということで、2050年の主役となる高校生や若者の方々にこの地域の評価、あるいは2050年どんな地域であることが好ましいのか、アンケートを採ろうと思っております。説明は事務局からお願いいたします。

事務局) アンケートについて事務局説明

委員長) アンケートはいくつか返ってきていますか？

事務局) 千は超えるぐらい返ってきている。3千ぐらいは最終的にいくのではないか。

委員長) 取りまとめは事務局にお願いしております。私も全部見ている訳ではありませんが、結構面白い回答もあるようです。そういうのも使っていただいて将来像を描いていただければと思ひます。余談ですが、アンケートにA Iが作ったシナリオを選んでもらうというのがありました。これは先ほどご説明があった将来構想研究会の報告書にも出てきますけど、7つA Iが作ったシナリオがあつて。資料でいうと30ページの参考「A Iを活用した未来予測 2050年の兵庫の研究」にあります。ただここから、A Iにも限界があるというのがわかつた。結局兵庫県の地域毎の姿を描いているだけで、本当に将来なの？という風に思われるようなシナリオでした。そこで次のページにA Iを超えて考えてくれ、人間の

力でないと無理だということで自由記述の欄を設けた。ここは結構面白い回答が出てくるのではないかと考えています。アンケートの結果については、また皆さんに共有させていただいて将来像を作っていきたいと考えております。

以上、ここまで皆さんのご意見、ご提案を賜りながら修正等をさせていただきましたが全体を通して何かご質問等ありましたらお受けいたしますがいかがでしょうか。

事務局) 2つの部会の議事録は、事務局から検討委員の皆さんに送付します。

委員長) そうしましたら、今日は色々なご意見を賜りました。今日出てきた意見というのは、県民に広げた場合必ず議論が出てくるかなと考えておりますので、是非ともこういった話があったことを踏まえて、全県ビジョンの委員会でもご披露いただいて良いビジョンを作っていただければと考えております。よろしく願いいたします。将来構想委員会の先生方にもよろしくお伝えください。

今後の予定は先ほど事務局から説明があったとおりで、部会の日程調整等は事務局でやっていただけるということです。